

「人・農地プラン」地域農業の将来を考える座談会（配布資料）

1. 「人・農地プラン」とは？

島田市の農業は、農業者の高齢化や担い手不足、農産物価格の低迷などにより、多くの方が農業を続けていくことが困難な状況になっています。その結果、農地の借り手も減少し、荒廃農地が増え、年々、地域農業が衰退しています。

一方、農業は、地域や産業の振興、安全安心で安定した食糧の確保や環境の保全、農地が持つ公的機能などあらゆる面から重要視されており、農業の維持発展は、市民や国民生活にとって非常に重要な問題であります。

そこで、5年、10年先の農地を、だれがどのように守っていくのかを示した、地域農業の将来図となる「人・農地プラン」を実質化することとなりました。

プランの実質化は、国の政策として農政推進のベースとなるもので、このプランに位置づけられた事業や担い手（中心経営体）に対して各種補助事業や融資など、様々な支援を行い、農地の集積・集約化や担い手の育成を進めていくこととなります。

2. プランの実質化の方法

- ・市内を島田・六合・初倉・金谷・五和・川根の6地区に区分して作成します。
- ・農家資格がある方を対象に、耕作の現況や後継者の有無、将来の意向などについてアンケート調査を行います。
- ・アンケート結果を示した地図を使って、地域で話し合いを行い、地区ごとにプランをまとめます。
- ・プランの内容は、課題の把握、中心経営体を誰にするか、農地の集積・集約化を図るための取組みなどであり、各地域の農業者が中心となって考え、方針を定めます。
- ・プランは、島田市担い手育成総合支援協議会で検討した後、今年度末に公表します。

※中心経営体に位置づけられた方は、必要な範囲において、公表させていただくことがあります。

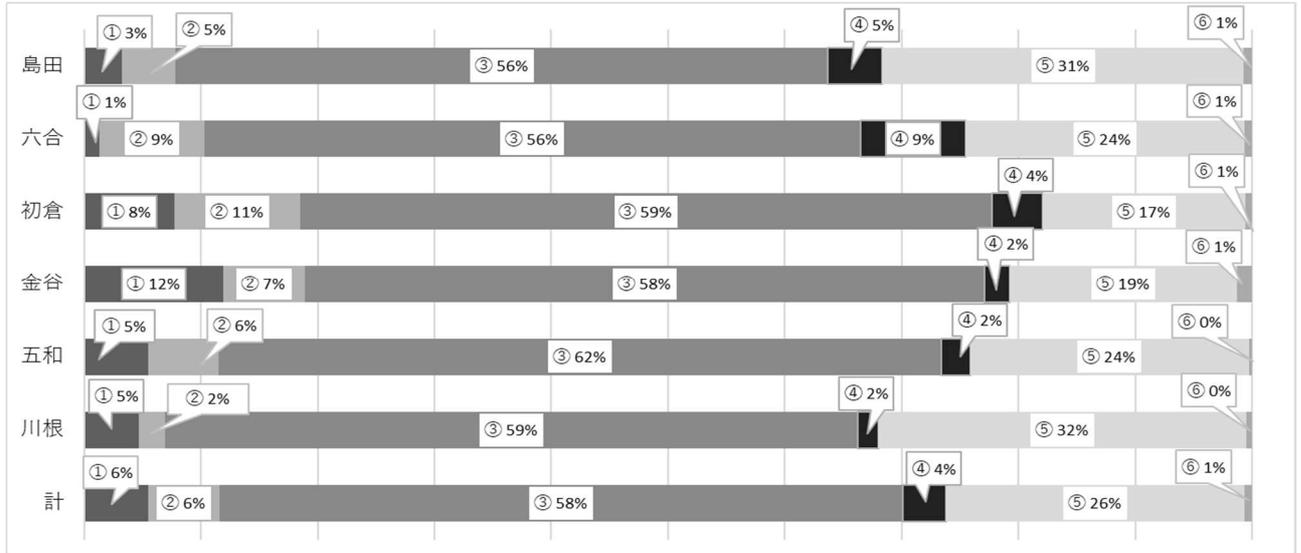
アンケートの回答状況

地区名	対象者数	回答者数	回答率(%)
島田	692	562	81.21%
六合	177	155	87.57%
初倉	394	373	94.67%
金谷	267	227	85.02%
五和	443	365	82.39%
川根	474	403	85.02%
計	2,447	2,085	85.21%

3. 農業経営者の年代と後継者の有無

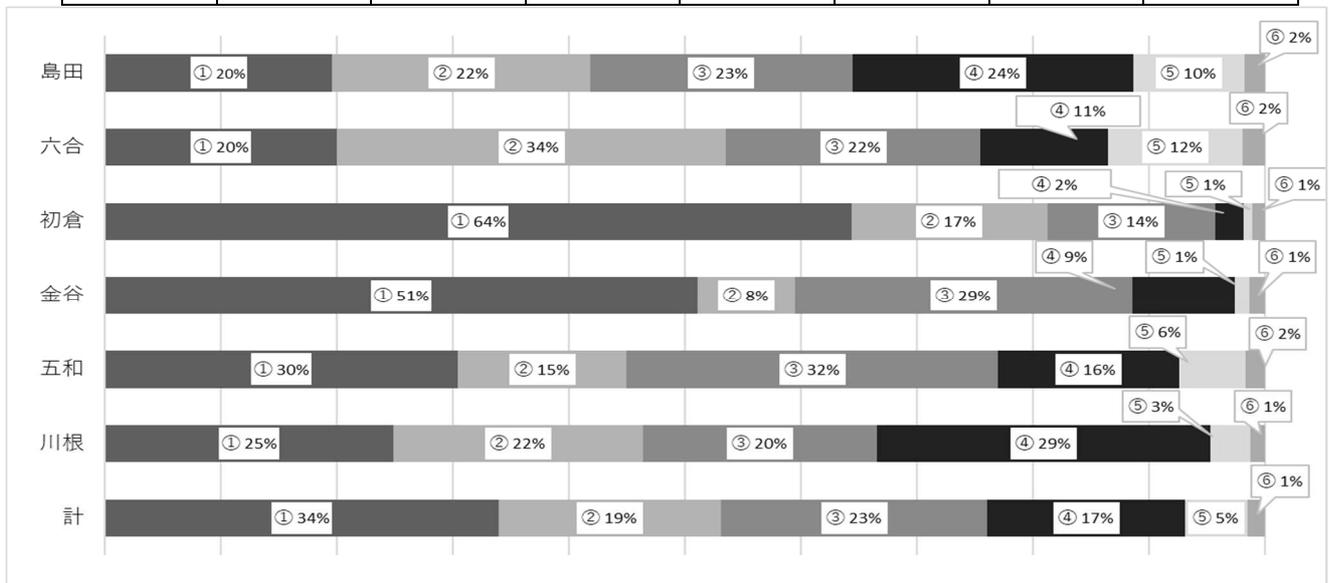
項目	①	50～75 歳未満		75 歳以上		⑥ 法人	合計
	50 歳未満	②後継者有	③後継者無	④後継者有	⑤後継者無		
島田	18	26	314	26	174	4	562
六合	2	14	87	14	37	1	155
初倉	29	40	221	16	65	2	373
金谷	27	16	132	5	44	3	227
五和	20	22	226	9	87	1	365
川根	19	9	239	7	127	2	403
計	115	127	1,219	77	534	13	2,085

※後継者無には、「分からない」も含んでいる。



4. 現在の経営状況

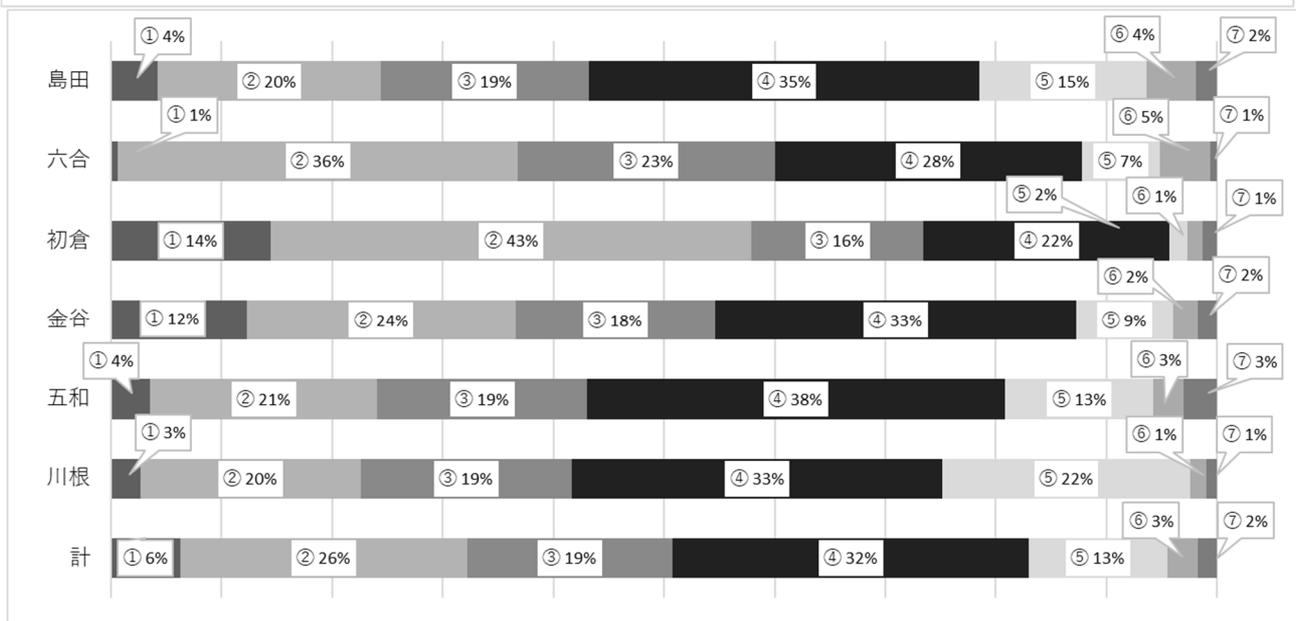
項目	①専業	②兼業	③貸付	④不耕作	⑤その他	⑥未記入	合計
島田	110	125	127	136	54	10	562
六合	31	52	34	17	18	3	155
初倉	240	63	54	9	3	4	373
金谷	116	19	66	20	3	3	227
五和	111	53	117	57	21	6	365
川根	100	87	81	116	14	5	403
計	708	399	479	355	113	31	2,085



5. 5年後の経営状況

(件)

項目	① 規模拡大	② 現状維持	③ 規模縮小	④ 貸付	⑤ 不耕作	⑥ その他	⑦ 未記入	合計
島田	24	113	106	198	85	25	11	562
六合	1	56	36	43	11	7	1	155
初倉	54	162	58	83	6	5	5	373
金谷	28	55	41	74	20	5	4	227
五和	13	75	69	138	49	10	11	365
川根	11	80	77	135	90	6	4	403
計	131	541	387	671	261	58	36	2,085



6. 専業農家の内訳

(戸)

項目	50歳未満		50~75歳未満		75歳以上		合計									
			後継者有	後継者無	後継者有	後継者無	後継者有	後継者無	計							
島田	1	(1)	10	(7)	55	(18)	10	(3)	30	(2)	21	(11)	85	(20)	106	(31)
六合	0	0	6	(3)	13	(2)	4	0	7	0	10	(3)	20	(2)	30	(5)
初倉	28	(24)	32	(26)	142	(88)	10	(3)	26	(4)	70	(53)	168	(92)	238	(145)
金谷	20	(17)	12	(9)	66	(35)	5	(2)	11	0	37	(28)	77	(35)	114	(63)
五和	4	(4)	19	(14)	70	(29)	4	0	13	0	27	(18)	83	(29)	110	(47)
川根	4	(3)	4	(1)	65	(17)	5	(1)	20	0	13	(5)	85	(17)	98	(22)
計	57	(49)	83	(60)	411	(189)	38	(9)	107	(6)	178	(118)	518	(195)	696	(313)

※カッコ内の数値は、認定農家数（内数）、法人は除いている。

50歳未満は、後継者有に分類している。

7. 規模拡大希望農家の地区別内訳												
・島田地区		希望農家数 23件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘（ミカン等）		野菜		その他（梅・イチジク等）		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田(地元)	12	960	2	60	4	110			4	54	22	1,184
六合	2	500										
初倉	1	500										
金谷												
五和												
川根												
市外												
計	15	1,960	2	60	4	110	0	0	4	54	22	1,184
・六合地区		希望農家数 1件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘		野菜		その他		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田											0	0
六合(地元)	1	50									1	50
初倉											0	0
金谷											0	0
五和											0	0
川根											0	0
市外											0	0
計	1	50	0	0	0	0	0	0	0	0	1	50
・初倉地区		希望農家数 54件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘		野菜（レタス等）		その他（花卉等）		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田											0	0
六合											0	0
初倉(地元)	29	1,845	7	150			16	1,317	4	130	56	3,442
金谷	1	150									1	150
五和											0	0
川根											0	0
市外											0	0
計	30	1,995	7	150	0	0	16	1,317	4	130	57	3,592
・金谷地区		希望農家数 28件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘		野菜（ネギ等）		その他		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田											0	0
六合											0	0
初倉	3	220									3	220
金谷(地元)	16	1,495					2	20			18	1,515
五和	1	50					1	30			2	80
川根											0	0
市外	2	100									2	100
計	22	1,865	0	0	0	0	3	50	0	0	25	1,915
・五和地区		希望農家数 11件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘		野菜		その他（花卉）		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田	1	50									1	50
六合											0	0
初倉	2	63									2	63
金谷	2	50									2	50
五和(地元)	4	242	1	1,000					1	40	6	1,282
川根											0	0
市外											0	0
計	9	405	1	1,000	0	0	0	0	1	40	11	1,445
・川根地区		希望農家数 11件										(件：a)
希望地域	茶		水稻		柑橘		野菜		その他		合計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
島田											0	0
六合											0	0
初倉											0	0
金谷											0	0
五和											0	0
川根(地元)	7	335	1	20							8	355
市外											0	0
計	7	335	1	20	0	0	0	0	0	0	8	355

※内訳は、延件数。拡大希望農家でも、内訳未記入だったり、経営の転換、傾斜地をやめて平地に切り替えるなどがあり、内訳件数と合致しない。

8. 地域の課題・意見・提案等（主なものを抜粋）

①島田地区

1	個人での農業経営は限界がある。基盤整備を進めて経営しやすいスタイルにするのが急務
2	提言⇒農地中間管理機構を中心とする関係者で法人化、組織化し小規模農地の集約化と耕作放棄地の解消を推進する。
3	急傾斜地茶園の植林と林業の将来についての指針が必要と思われる。
4	借地の面積は増えなくても乗用摘採機の入る茶園を増やしたい。
5	会社（法人）に貸して合理化のもとで農業をやるしかないのでは？それならば若者もやるのではないか。
6	中山間地の茶園でも、ある程度の圃場整備はできないものか。整備してある茶園なら担い手はあると思う。
7	地区全体を有機栽培化し、環境にやさしい地区にしたい
8	地元地区には60歳以下の農業者がいないため、将来的には借り手が不足すると思われる。コントラクター組織（作業請負業者）を立ち上げて安定的な担い手の育成が農地維持には不可欠。
9	茶葉の低迷により農家数・栽培面積ともに激減しており、茶農協の存続すら危ぶまれている。このため地区の環境に適している柑橘栽培に転換し、地域として通年で生産⇒加工⇒販売できる体制を整備し新たな集落営農組織を構築する。
10	労働力の確保（特に収穫期）のため人材の斡旋の仕組みを公的に検討していただきたい（シルバー人材の活用など）
11	認定農家の条件の見直しをしてほしい。
12	農地バンク制度の利用法がわからない。知らない人が多いのではないか。利用方法をPRすべき。
13	アンケート結果に基づく地域での話し合いが重要。1回ではなく何回も実施する必要がある。アンケートを集約し速やかに地図化を行い話し合いにもっていく工程を示してほしい。

②六合地区

1	耕作放棄地解消のため市民農園として貸出
2	住宅化が進み継続が難しくなっている。その中でレンゲ栽培をするなどできることを続けていきたい。
3	専業で大規模にやりたい方にまとめて貸す。
4	周辺に住宅があるため機械を使用して作業する場合に騒音とか消毒用の薬のにおい等に気を遣う。
5	大規模化もよいが、個人事業主、兼業農家が継続経営できるような政策も考えていただきたい。
6	ライスセンターの整備が必要
7	貸借をしても受け入れに限度がある。
8	山林、里山の資源（資本）としての中長期的価値を位置づける（木材・茶・竹・太陽光発電・水力発電・防災機能）
9	後継者がいない土地については、経営の一環として企業に地区全てを耕作していただく
10	近年多発する水害について、水田は貯水の重要な役割を担っているため宅地開発は安易にすべきではない。

③初倉地区

1	茶から野菜に転作も行っているが、小規模（個別）では鳥獣被害や農薬ドリフトなどの制限があるので、一定の規模で野菜団地的に集約して新規就農参入を図るなど総合的な農地利用で茶園放棄地を防ぐ。
2	今の茶業（農業）の維持管理は基盤整備しかないと思う。小区画でもよいので経営になるべく負担にならない程度の中ですすめていければ。
3	耕作面積を広げたいが飛び地となり、集積することが困難。機械の効率を考え、なるべく近くに集積していけるように借り手の整備もしてもらいたい。
4	高齢化がすすんでいるので委託作業なども行いたい。茶：管理作業 レタス：払打ちと出荷、米：稲刈、粃すり乾燥など
5	茶業から他の経営への転換。通年で組織内の人員 パート 人を雇い、作物を生産していきたい。
6	家族経営から脱却して共同経営・雇用などで規模拡大や複合経営、作物転換を図る。
7	農水省で2030年までに農薬50%有機肥料30%に減らしたいと目標を掲げているので希望を持って進みたい
8	個人経営から集団（2戸～）経営にして、労力の分散共有、設備機械の共有を図り活性化高齢化対応を考えてみたらどうか。個人の組み合わせ、主導権、経営をどうするかは難しいかも。
9	後継者不足の為、湯日地区協同茶工場など、いずれ他の協同工場などの合併も考えたほうがいいのか。
10	戸単位の経営ではなく法人化して コスト、後継者問題等に対処していく。
11	農産物の販売だけでなく、六次産業化を図り、収益をアップさせて持続可能な経営を目指す。（農業・農産物販売・食堂・レストラン・カフェ）
12	茶農協を軸とした共同摘採・共同管理を行っていけば希望が持てるのではないかと。ただし、各茶農協間の収入格差が大きいと思われるので、経営にも積極的に関与して各茶農協の個性を生かした指導をしてほしい

④金谷地区

1	高齢化が進み、お茶のような重労働は困難になってきているので野菜や果樹への転作と近隣住民の組織化助け合いによる集団農業を推進してはどうか。
2	農繁期は労働力不足なので人材バンク、営農サポートなど協力できる組織があると助かる。
3	現在、自園、自製、自販ですが 拡大希望は茶小売などの形態への転換
4	水田の用排水施設の老朽化（漏水等）の修繕をしてほしい
5	稲作は地元の若手数人によって守られている状況。この人達が出来なくなったら荒地となる可能性が非常に高い。
6	急傾斜地を含め基盤整備をすすめ、お茶だけでなくグループごとで栽培作物を分けて生産する。
7	平地はさらに集積を進めて効率化し、山間地を無農薬エリアなどにして売り先に応じた農地計画を求めます。
8	担い手が利用する面積が、今後10年間で牧之原地域の茶園面積の8割となるように農地集積し、茶だけでなく野菜や果樹が可能となる産地化を形成できれば農業の競争力強化になるし、後継者育成につながると思う。
9	水田の用排水施設の老朽化（漏水等）の修繕をしてほしい
10	貸借、基盤整備等により農地の集約化を進め、機械化、低コスト化に対応できる体制を作る
11	お茶に関しては防霜組合・用水組合などをJAに管理委託して賦課金の引き落とし等一元管理する
12	農地バンクの説明が難しく理解できない。昔は土地を貸すと取られてしまうことがあったため、農地バンクでもごまかされているのではと思う。

⑤五和地区

1	農業生産法人（会社）の検討
2	発酵茶などの製造に取り組みたい。
4	金谷地区で有機茶、または有機碾茶事業の中心経営体になる人がいれば、その人に生葉を持ち込んだり委託加工をお願いしたいのでその情報が必要。
5	農地を貸したい人、借りたい人を登録して活用できる仕組みがほしい。
6	茶農協の将来像が見えない中で個人としては難しい面もあるので、ぜひこの機会に茶農協の将来や現状の運営に対する課題等も把握する必要があるのでは？
7	平坦地での集団的茶園の基盤整備を進めて次世代につないで行ってもらいたい。
8	茶園も水田も放棄地が増えている。茶園の傾斜地は自然に返し、水田はレンゲ、ひまわり等の景観作物の奨励。
9	運搬や台切等安価でお手伝いに来てくれる人材バンク的なものがあればと思う。
10	小規模農家でもスマート農業を取り入れて省力化を図り後継者不足の解消となるよう、また、大規模・小規模問関わらず、国土保全に尽力していることから、補助対象の幅を広げていただくよう検討してほしい
11	現状の貸借関係を見直し、個と個から面積集約による貸借を地元皆で話し合いたい。耕作面積の拡大を図ることにより担い手不足、製造コストの削減を図ることができる。
12	人・農地プランを活かして島田の農業を守っていただきたい。

⑥川根地区

1	体験農場等何らかの形が出来れば良いなと考える。
2	法人としての共同経営を考えたい。
3	家山原地区の農地は一部住宅を除いて青地で、近年耕作放棄地がかくだいている。基盤整備を行えば優良農地になりますので計画したらと考える。
4	これからは個人で茶園を守っていくというより茶業組合等に茶園を借りてもらい、乗用の大型茶刈機等で大きな茶業経営を行ってもら方がいい。（田んぼや山林も同様）
5	借地を改植し、新品種を導入して機械化を進める。
6	オーガニック農法に力をいれたい。
7	傾斜地や機械の入らない圃場をやめて平坦地など機械の入るところを借りて規模拡大したい。
8	耕作放棄地が多くなりつつあり、土地改良区、防霜ファン組合などの運営に支障が出ている。解消するには資金、手間がかかるので難しい。今以上の支援がなければ手がつけれない。
9	みどりの食料システム戦略に即した取り組みの推進が必要。グローバル経済の中で、世界的な価値観の共有が地方地域の農業の維持に重要であることを行政が積極的に推進してほしい。
10	現在栽培している面積の半分を抹茶用にまわす。そうすればドリンク用の終番茶も採取できる。
11	乗用型摘採機導入への基盤整備

※上記の他、全地区に共通して多く挙げられた課題や意見として、高齢化や担い手不足、荒廃化、鳥獣被害、農業所得の減少、宅地転用や林地化、太陽光施設利用などがありました。